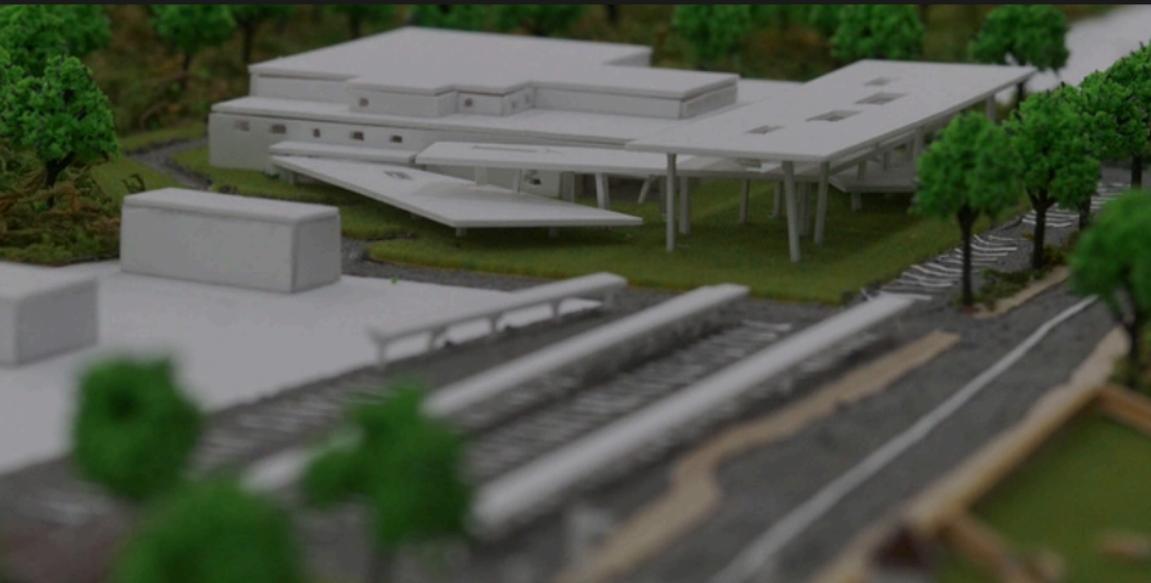


声を編む設計

～滝原・木～木館周辺の空間提案～



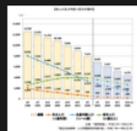
CONCEPT

～時間のゆとりを編む拠点～

設計において、自分がその地域らしさを見つける
主観的側面も大事だが、
地元住民やその土地に訪れた人の実際の「声」を聞くことは
物凄く大事だと思っている。
私は実際の面を大紀町とした設計だしたいと思い、
地元住民や道の駅水つつ木館に訪れた人、
道の駅水つつ木館の支配人さん、
大紀町観光協会の方、
大紀町役場の方にはアンケートとセーリング調査を実施した
どういふ人がどういった機能をお望みしているのか、
そう言ったことを細かく分析を行い、
声に寄り添った設計となっている。

設計の動機

私の地元三重県大紀町滝原の道の駅周辺は
人口減少や地元を離れる人が年々
多くなってきており、「寂しい風景」が
記憶の中で風景画像として印象強く残っている。
滝原で育ってきた私は、滝原のことが好きで、
これからも滝原らしさを残しながら
あり続けて欲しいと思っています。
そのためには、大紀町に住んでもらう人も
増やさなければならぬし、
昔住んでいた人が
もう一度大紀町に戻って来てもらう必要がある。



計画敷地

三重県会郡大紀町滝原



道の駅水つつ木館

大紀町は、奥山村部と
沿岸部双方の特色を
併せ持つ自然豊かな地域
敷地周辺には国道42号が
通っており、津方面と
熊野方面を繋いでいる
道の駅水つつ木館と
隣接が、福祉施設もあり、
地元住民の生活を支えている。

敷地①



敷地③



敷地②



敷地④



敷地の現状

計画敷地は、使われていない敷地であり
雑草も生えているが、
周囲は山景色となっており、
自然との時間を優雅に
過ごすことができる
フラットな地帯であるため、
周囲の様子がよくわかる
夜の時間帯になると、
街灯も少なくお店も開いていないため、
出歩きにくい
水つつ木館前の敷地は
現在は駐車場であるが、
年末年始の伊勢神宮伊弉大神宮
別宮滝原宮の参拝時以外は
駐車場利用密度が低い

研究の道のり



ヒアリング調査

2025年の9月に奥伊勢道の駅木つつ木館、大紀町観光協会、大紀町役場産業振興課の方にヒアリング調査を実施した
 それぞれの3人の方に大紀町の観光の現状だったり、地元住民から寄せられる要望や課題、道の駅木つつ木館の利用者数等の異なる質問をした
 その結果以下の通り大紀町渥原の活性化に向けた課題が見えた

農林漁業体験民宿・住宅宿泊事業・民泊・キャンプ場と言った宿泊施設のニーズがある



江戸時代 里地区(自分の家周辺)は街道沿いに30人ほど御泊(泊宿をどの駅話をする人)がいた



インバウンド(団体、特に台湾、中国、香港、タイ等のアジア地域を中心とした訪日教育旅行団体との関わりがある



5年後には計画数地に大紀町役場が移転することが分かった
 大紀町新庁舎建設基本構想があることも分かった



アンケート調査

アンケート調査は訪問者版アンケート調査と大紀町住民版アンケート調査の2つを実施した
 訪問者版アンケート調査では2025年の9月に道の駅木つつ木館前にアンケート調査のためのブースを設置し、紙媒体とQRコードの両方を用いてアンケートを実施した
 住民版アンケート調査では地元のクラブチームや友達、親の仕事先の方々に協力してもらいアンケートを実施した

～アンケート質問事項～
 訪問者版アンケート調査：年齢性別、本日の主な目的、出発地、交通手段、同行者、滞在予定時間、立ち寄り先、情報の手入力、あれば使いたい機能、消費傾向
 住民版アンケート調査：年齢性別、居住年数、世帯構成、普段の生活動線、木つつ木館の利用頻度、木つつ木館の主目的、欲しい機能、屋外イベント

訪問者版アンケート調査



住民版アンケート調査



分析 現地調査、ヒアリング調査、アンケート調査で分かったことを基に渥原が活性化するための施設を提案



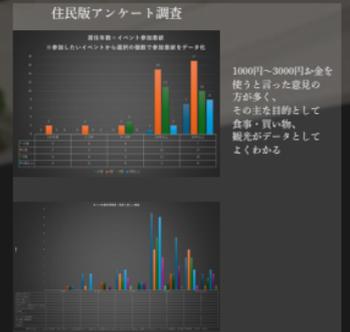
高齢者、中年層、若年層の3つのターゲット層に分け、さらに住民と観光客に分け、ターゲットを細分化
 一つ一つの機能がどれくらいの動線か、どれだけの滞在時間かを足跡マークと時計マークで表現している

回遊性・動線計画を表現しており、訪問者が多いほど、動線が長い
 滞在時間を表現しており、滞在時間が長ければ、滞在時間が長い

データとデータを比較することで、行動属性を導き出す



一つの質問事項に対して統計データを出しても、人の行動、動線を把握するのは難しい
 一つの質問事項に対するデータを2つ比較したことでより明確な人それぞれの人の行動属性を導き出すことができた



現地調査、ヒアリング調査、アンケート調査で分かったことを空間提案していくため、1つのコンセプトデザインを作成
 CONCEPTである時間のゆとりを編む拠点とCONCEPT DESIGNがつながっている
 このCONCEPT DESIGNを基に設計を行った

男性女性ともあれば使いたい機能として屋外マーケットキッチンカー、テイクアウト軽食、展望デッキの3つが分かった
 週末印象ガイドも女性はあれば使いたい機能として目立っていることが分かった

木つつ木館の利用頻度としては年に数回がほとんど行かなかったり少ない頻度であることが分かった
 そういった人たちが渥原に欲しい機能として屋根付き広場だったり、子供の遊び場が多く活性化するためにはこの機能を増やしていかなければならない

01.滞在時間・ターゲットによる計画

滞在予定時間 ターゲット層

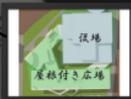


Rooftop Areaの敷地には5年後役種が新行舎として計画されている
この敷地をメインと置くことで機能を集約し、滞在時間も幅広く機能できるよう計画している
Accommodation Areaの敷地はエリアから分かった自由施設(民泊)を計画することで滞在時間がより長い人も集客できる

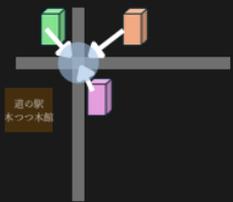
Accommodation Area



Parking Lot

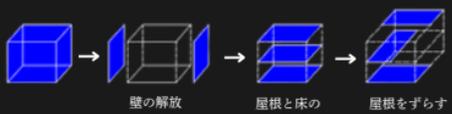


02.建築物の軸方向性を忘れない



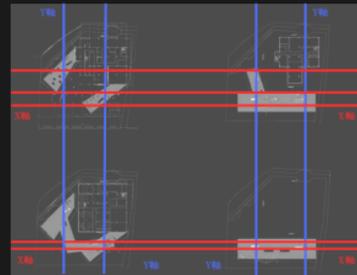
建築物には軸という方向性的特徴がある
その軸がずれれば道路と道路の交差を中心にして、3つのエリアが中心に向かった、それぞれの建築物が1つの軸線上に集約化している

03.壁がない大屋根大空間 ~Rooftop Area~



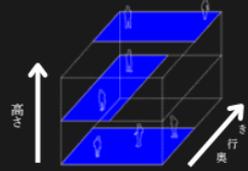
壁で囲まれた空間ではなく、壁を取り払い屋根(床)と柱だけの構造にすることで、人の動きが直接目に見えるので、入りやすくなる誘導をもたらすことができる

04.柱の軸で支える ~Rooftop Area~

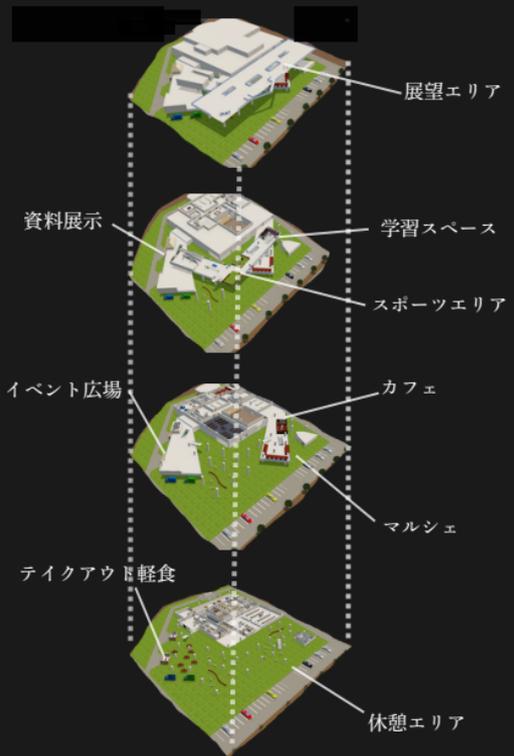
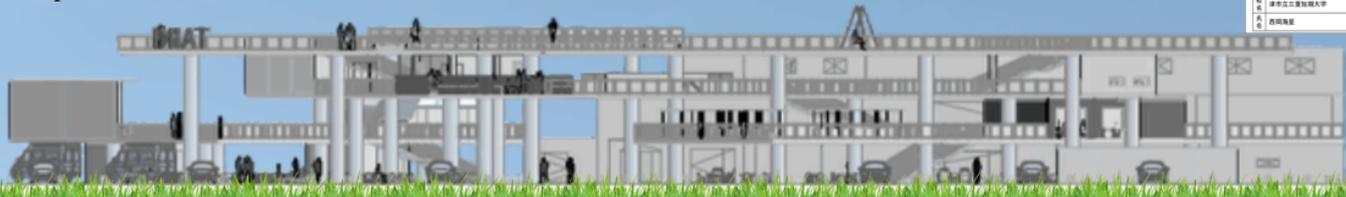


Rooftop Areaの大屋根はGLを含めると3つの層に分かれている
互い違いに重なっていることと方向性が異なって見え、構造的に不安定に見える
そこで屋根の方向性をX軸とY軸の成分に分けてどこどこが交差していくのかを見つけていくことで柱の本数を減らすことができる

05.奥行きと高さの動線計画 ~Rooftop Area~



分析で設計すべき機能をどのように実現するかと算出したことを高さとも奥行きでも実現動線・滞在予定時間が長い機能ほど高さが高くなり、奥行きも長くなっている



展望エリア

資料展示

イベント広場

テイクアウト軽食

学習スペース

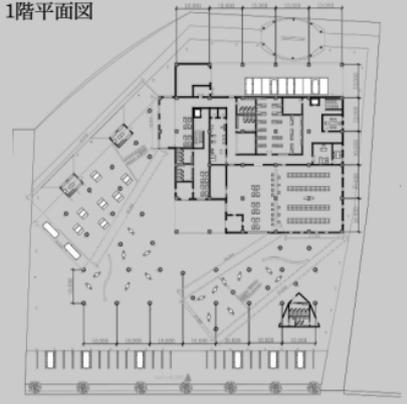
スポーツエリア

カフェ

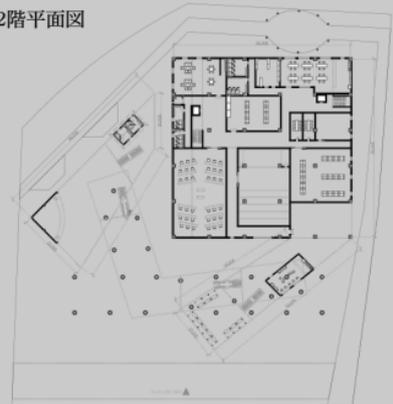
マルシェ

休憩エリア

1階平面図

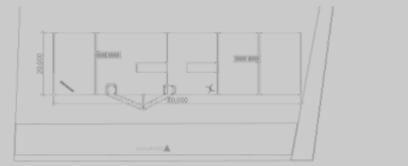


2階平面図





3階平面図



4階平面図



資料展示

このスポーツエリアには卓球、モルック、プレイルームがあり、様々な年齢層で楽しむことができる



スポーツエリアで盛り上がる人たち



学習スペース



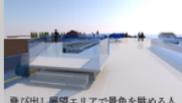
席をパネルで区分けしているので、人の視線を気にせず過ごすことができる



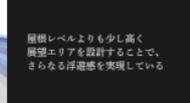
建築物の軸方向性を考えながら設計することで、「TAIKI」文字オブジェクトと道の駅が線に重なり合うことができた



フォトスポットで道の駅の背景に写真を撮る人



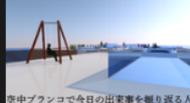
飛び出し展望エリアで景色を眺める人



屋根レベルよりも少し高く展望エリアを設計することで、さらなる浮遊感を実現している



駅地周辺は山、林となっている遊んだ空気を揺られながら感じることができる



空中ブランコで今日の出来事を振り返る人



1階平面図



2階平面図



3階平面図

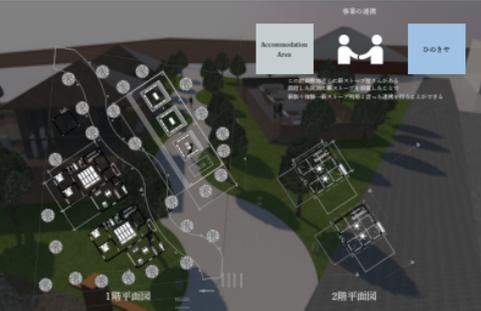


役種は5年後に新庁舎が計画されているにあり、ダイアグラム構成が作られているしかし今の大和町の役種は住民の利用が少なく感じているそこでもっと住民にとって役種を身近な施設に感じてもらうようにダイアグラム構成を基に設計しているダイアグラムを基本に設計しているが、文庫を設けることで大和町にはない図書館の機能を果たすジムやスタジオがあることで天候関係なしに運動不足を解消でき、交流のきっかけも生まれる

Accommodation Area

Parking Lot

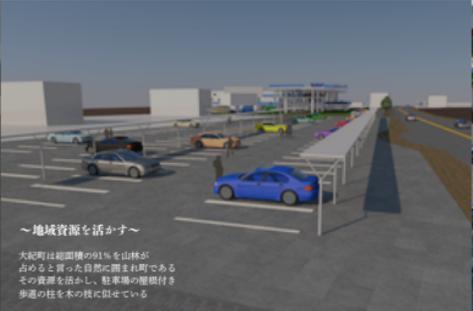
Dog Park



学生の連携

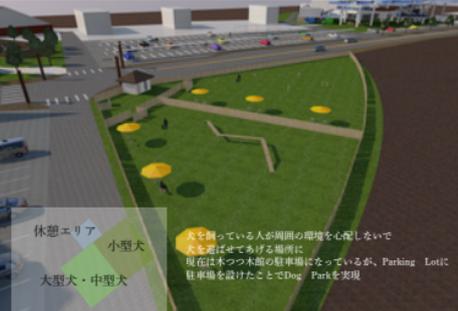
Accommodation Area

203名



～地域資源を活かす～

大和町は総面積の91%を山林が占めると言った自然に囲まれ町であるその資源を活かし、駐車場の屋根付き歩道の柱を木の柱に設けている



休憩エリア

小型犬

大型犬・中型犬

犬を飼っている人が周囲の環境を心配しないで犬を遊ばせてあげられる場所に現在日本のお木型の駐車場となっているが、Parking Lotに駐車場を設けたことでDog Parkを実現